

ACCESS

アクセス

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島へ
お越しの際は飛行機又はフェリーをご利用ください。

飛行機でお越しの方

1 東京(羽田・成田)・大阪(伊丹・関西)・福岡から奄美大島

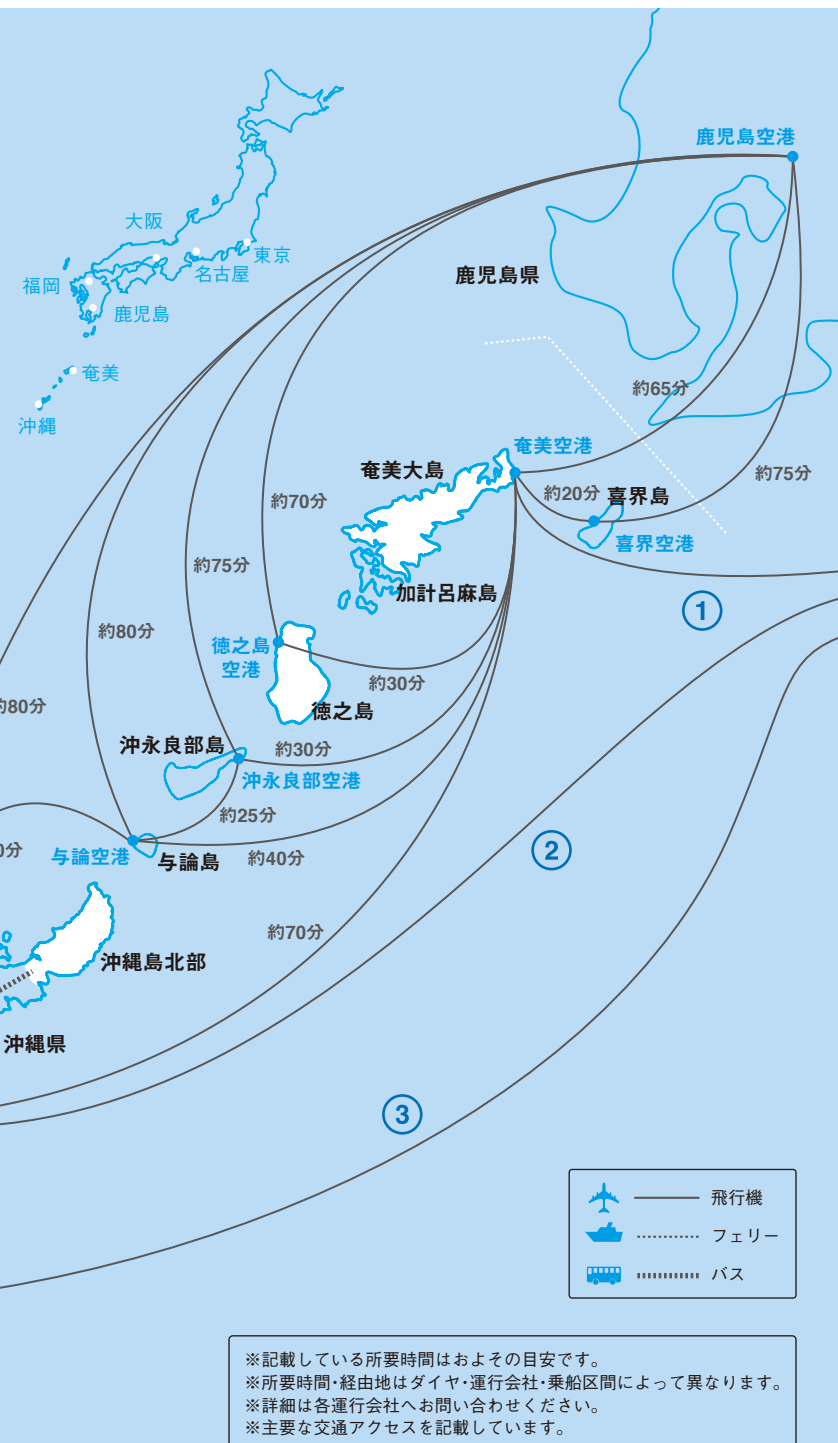
東京	約2時間15分～35分
大阪	約1時間40分
福岡	約1時間20分

2 東京(羽田・成田)・大阪(伊丹・関西)・名古屋(中部国際空港)・福岡から那覇

東京	約2時間30分
名古屋	約2時間10分
大阪	約2時間
福岡	約1時間40分

3 東京(羽田)・大阪(関西)・名古屋(中部国際空港)・福岡から石垣島

東京	約3時間
名古屋	約2時間35分
大阪	約2時間20分
福岡	約2時間05分



※記載している所要時間はおよその目安です。
※所要時間・経由地はダイヤ・運行事業・乗船区間によって異なります。
※詳細は各運行事業社へお問い合わせください。
※主要な交通アクセスを記載しています。

奄美・琉球について

一般社団法人 奄美群島観光物産協会

☎ 0997-58-4888

〒894-0023 鹿児島県奄美市名瀬永田町18-6

国頭村役場

☎ 0980-41-2101

〒905-1495 沖縄県国頭村字辺土名121番地

NPO 法人東村観光推進協議会

☎ 0980-51-2655

〒905-1204 沖縄県東村字平良471-24

大宜味村役場

☎ 0980-44-3001

〒905-1392 沖縄県大宜味村字大兼久157

竹富町観光協会

☎ 0980-82-5445

〒907-0012 沖縄県石垣市美崎町1-5



鹿児島県

〒890-0064
鹿児島県鹿児島市
鴨池新町10-1
TEL / 099-286-2994
<http://www.pref.kagoshima.jp>



沖縄県

〒900-8570
沖縄県那覇市泉崎1-2-2
TEL / 098-866-2764
<http://www.pref.okinawa.jp>

公益社団法人 鹿児島県観光連盟

〒892-0821
鹿児島県鹿児島市名山町9-1
(鹿児島県産業会館内)
TEL / 099-223-5771
<http://www.kagoshima-kankou.com>



〒901-0152
沖縄県那覇市字小嶽1831-1
沖縄産業支援センター2F
TEL / 098-859-6123
<http://www.ocvb.or.jp>

還る島

奄美大島

育む島

沖縄島北部

世界自然遺産の登録へ
時を紡ぐ、彩りの島

奄美 琉球

繋ぐ島

徳之島

宿る島

西表島

時を紡ぐ、 彩りの島



奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島

世界自然遺産の登録へ

次世代へと受け継ぎたい、美しい自然、貴重な生態系を有しているエリア。

鹿児島県から沖縄県にまたがる、奄美大島、徳之島、沖縄島北部、西表島の

「世界自然遺産」登録を見据え、各地域の魅力と豊かな個性をナビゲートします。



加計呂麻島・安脚場戦跡公園から見た大島海峡と奄美大島



奄美大島 「金作原原生林」



徳之島 「犬の門蓋から見た夕景」



沖縄島北部 「辺戸岬の風景」



西表島 「サンゴ・シュノーケリング」

世界自然遺産とは

「世界自然遺産」は、世界共通の財産として後世へと受け継いでいくべき、貴重な宝物。世界遺産条約に基づいて、「地形・地質」「生態系」「自然景観」「生物多様性」といった4つの評価基準のいずれかで世界で唯一の価値を有する地域を、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が登録します。日本国内では、これまでに屋久島(鹿児島県)・白神山地(青森県、秋田県)・知床(北海道)・

小笠原諸島(東京都)の4地域が「世界自然遺産」に登録されており、現在、鹿児島県から沖縄県の南西諸島にまたがる「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」はそれに続く世界自然遺産候補地として選定されています。「世界自然遺産」には、貴重な自然の景観や地形、そこに生息する稀少な動植物や独自の生態系を次の世代へ遺したい、という人類の強い思いが込められています。

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」 対象地域を訪れる際の注意事項とご協力をお願い

世界自然遺産登録の対象地域である、奄美大島、徳之島、沖縄島北部、西表島とその周辺地域は、奥深い森や海岸線など、手つかずの自然が残るエリアが多いため、適した衣服・履物等の装備を事前に調べ、怪我・事故などがないよう十分にご注意ください。また、対象地域では自然保護の観点から、動植物の採取・捕獲・各エリアからの持ち出し等を行わないようご注意ください。世界共通の財産である豊かな自然を守りながら、次世代へ受け継ぐためにも皆様一人ひとりのご協力をお願いいたします。



鹿児島

奄美大島

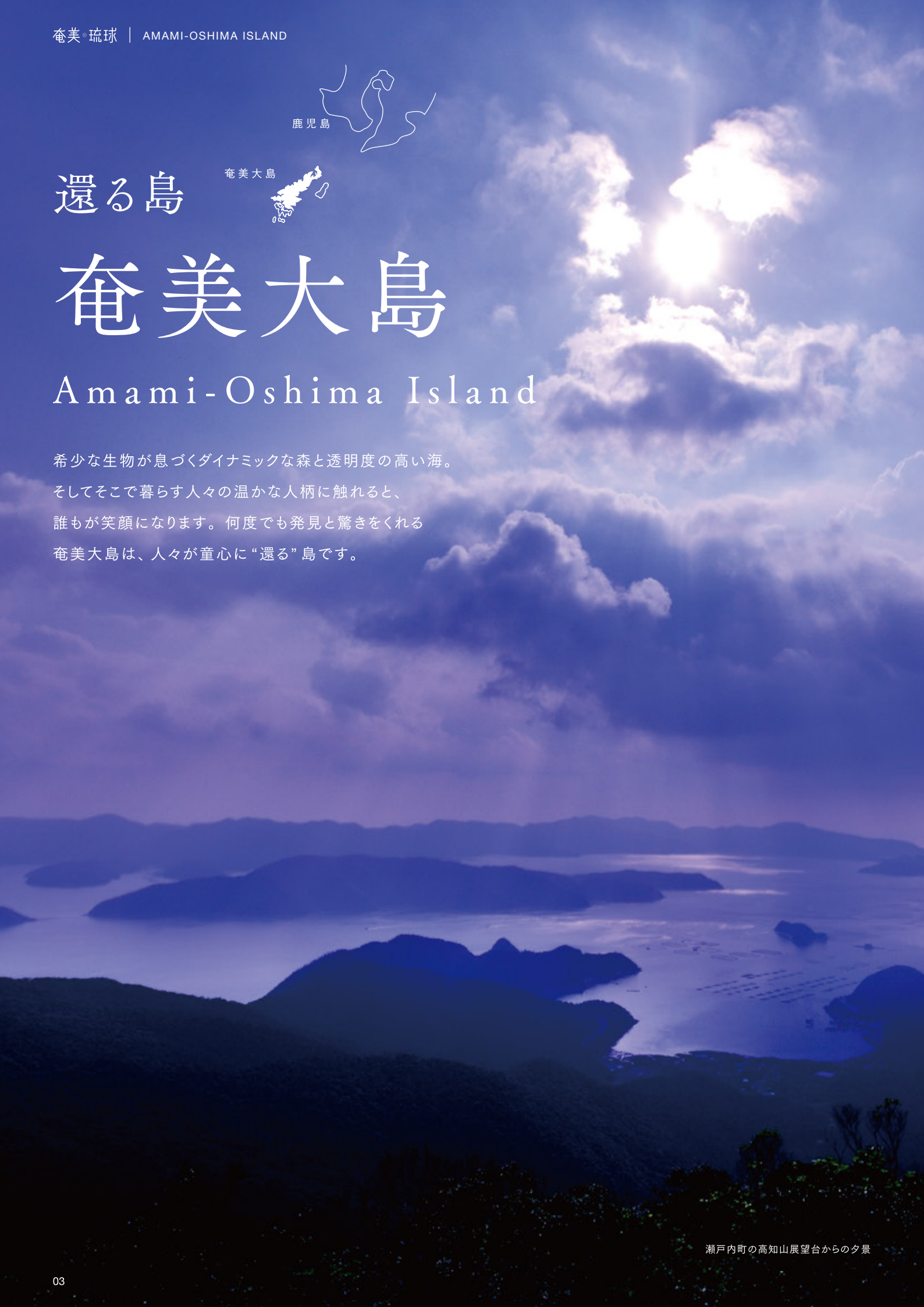


還る島

奄美大島

Amami-Oshima Island

希少な生物が息づくダイナミックな森と透明度の高い海。
そしてそこで暮らす人々の温かな人柄に触れると、
誰もが笑顔になります。何度でも発見と驚きをくれる
奄美大島は、人々が童心に“還る”島です。



瀬戸内町の高知山展望台からの夕景



A



B



C



D



瑠璃(ルリ)色の鳥、
ルリカケス
奄美群島だけに生息する、
瑠璃色の体毛が美しい
国の天然記念物

A. 一面を覆う丸石が、波の影響で音を奏でるように聞こえる『ホノホシ海岸』 B. 本当に美しい太陽の滝壺という現地の言葉がなまって『マテリアの滝』という名前になったそう C. 奄美大島の中南部の奄美市住用町には雄大なマングローブ原生林が広がっている D. 『平瀬マンカイ』は、アラセツ(旧暦8月の初丙の日)に五穀豊穡を祈願する祭り

奄美大島は太古の昔、大陸から孤絶してできた島。島に残された生物たちには天敵がいなかったため、現在もこの地で生命を繋いでいます。その代表格がアマミノクロウサギやルリカケス、オオトラツグミなどの固有種です。
島の北部はなだらかな地形なのに対し、中南部は土地の9割が山林を占める険しい地形。年間3000mm以上降る大量の雨により、亜熱帯性広葉樹林と熱帯系の樹林、シダ類が豊かな森を育んでいます。森にひとたび足を踏み入れると、そこはアドベンチャー映画の世界。奄美大島が北限のヒカゲヘゴやオキナワウラジロガシ、クワ

ズイモなどが鬱蒼と生い茂り、希少な動物たちにすみかを提供しています。島の中央部にある金作原原生林や日本第2位の広さを誇るマングローブ原生林では、生物の多様性を体感することができるでしょう。
それだけではなく周辺の海もまた、貴重な生物の宝庫。温暖な黒潮の影響で、周辺の海には約220種類ものサンゴが生息し、魚たちのすみかとなっているほか、大小の入江が連なる海岸にはウミガメが産卵にやって来ます。奄美大島には山と海それぞれに多様な“生命”が息づいています。



大島紬は1300年もの歴史を誇る日本最高峰の高級絹織物



南部にある高知山展望台では大島海峡を一望できる



ガガイモ科のサクララン



Photo: 観光ネットワーク奄美

アマミクロウサギは奄美大島と徳之島のみに生息



手つかずの原生林が生い茂る金作原には巨大なヒカゲヘゴが生い茂り、希少生物も生息している



幻想的な海の色と砂地に点在するサンゴ礁が独特の光景を生み出す倉崎海岸



島唄は宴会でも日常的に歌われており、島人にとってなくてはならない存在



鶏飯はご飯にババイヤ漬けや鶏肉、錦糸卵などをのせ、鶏のスープをかけて食べる

奄美大島

自然体験と島の文化

奄美大島には、様々な歴史的背景や独特の自然環境の中で、脈々と受け継がれてきた独自の文化があります。

世界三大織物

「大島紬」の泥染め体験

マングローブ原生林のカヌー体験や金作原のトレッキングなどで大自然を満喫するのはもちろん、伝統工芸である大島紬の泥染め体験も人気です。大島紬独特の色合いは、「シャリンバイ」という木の煮汁に含まれるタンニンと泥田に含まれる鉄分が結びつい

て生み出されます。大自然の中で染める作業を繰り返していると、世界三大織物である大島紬の奥深さと、ものづくりの楽しさを感じることができるでしょう。

島人の暮らしに溶け込む「島唄」

薩摩や琉球との複雑な歴史の中で、奄美大島では独特の文化が育まれてきました。

特に奄美三線を弾きながら歌う島唄は、集落の伝統行事やお祝いなどで大切に歌い継がれています。裏声を使った歌い方は奄美特有のもの。かつて島を離れることは今生の別れを意味していたため、別れ唄が多いのも特徴です。唄を掛け合うことで人々の縁も結んできた島唄。その貴重な文化は今も昔も“島人(しまっちゅ)”の心の拠り所となっています。

奄美大島のおふくろの味

薩摩と琉球の影響を受けながら独自の食文化に発展した奄美の郷土料理。島野菜や海の幸、黒豚や鶏肉など地の物を使い、黒砂糖で甘めに味つけるのが特徴です。中でも人気なのは、ご飯に鶏肉などの具材をのせ、鶏スープをかけて食べる鶏飯(けいはん)。元々は江戸時代に薩摩の役人のために

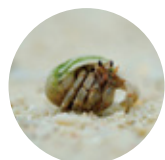
つくったおもてなし料理でした。あっさりとしつつも旨味が凝縮した鶏スープは、島人のみならず観光客をも虜にさせるおいしさです。



▲黒糖はサトウキビの栽培が盛んな奄美大島を代表する食品
▶黒糖焼酎は奄美群島内でしかつくられていない特別な焼酎

＼ココが見どころ！／

奄美大島を周遊するなら…



1 土盛海岸

北部に位置する土盛海岸は、島内でも屈指の透明度を誇り、青のグラデーションの美しさから“ブルーエンジェル”と呼ばれています。



2 本場奄美大島紬泥染公園

泥田を整備・保存しているため、泥染めの工程を見学できます。また、泥染めを用いたオリジナルTシャツづくりも体験できます。



3 黒潮の森マングローブパーク

カヌーに乗ってマングローブ原生林を探検できます。マングローブはもちろん、水と緑が豊かな住用の美しいランドスケープも必見。



4 奄美海洋展示館

奄美大島近海に生息する海の生き物を飼育・展示。貝や海藻を使った貝細工体験や、ウミガメのエサやりも人気。



5 マテリアの滝

大和村の奄美フォレストボリス内にある神秘的な滝。太陽が反射してキラキラと輝く滝壺は、目を見張るほどの美しさです。



6 黒糖焼酎蔵見学

世界中で奄美群島内でしかつくられていない黒糖焼酎。島内には、製造工程の見学や試飲ができる蔵元もあります。



7 田中一村記念美術館

奄美大島の自然を愛し、鋭い観察力と画力で奄美の植物や動物を描き続けた日本画家・田中一村の作品を多数展示しています。



加計呂麻島

Kakeromajima Island

加計呂麻島・喜界島

海と森が織りなす非日常空間

加計呂麻島にはたくさんのビーチがあり、海水浴やマリンスポーツを楽しむことができます。中でも白浜が美しい徳浜は、その美しさから寅さんシリーズの最終作『男はつらいよ 寅次郎紅の花(1995年)』の舞台になったことでも知られ、大自然が織りなす絶景の数々は旅人を魅了してやみません。また、デイゴの並木や巨大なガジュマル、豊かな動植物を育む

森、さらに昔ながらの佇まいを残す集落の風景も加計呂麻島ならではの魅力です。

今でも隆起を続けるサンゴの島

喜界島は隆起サンゴ礁の島で、現在でも年に2mmずつ隆起しています。美しい南国の花々や、喜界島が北限生息地とされるオオゴマダラなどの蝶が飛び交う自然はもちろん、そこに寄り添って生きる島人の息づかいを肌で感じることができるのも魅力。集落にあるサンゴの石垣や、サトウキビ畑を縦断するよう

に伸びる一本道はその代表です。また、平坦な喜界島の中では最も標高の高い百之台公園からは、東シナ海と太平洋を一望できます。

【加計呂麻島】A.スリ浜は「白い村」とよばれる美しいビーチ B.海辺には木陰も多く、ゆったりとした時間が楽しめる C.青々とした武名のガジュマルの巨木 D.嘉入の滝 E.「死の棘」などの純文学作品で知られる作家・島尾敏雄は特攻艇指揮官として呑之浦に駐屯した

【喜界島】F.キビ畑の間を海へと続くおよそ2.5kmの一本道は別名「東シナ海へと続く一本道」とも呼ばれている G.島内で作られる黒糖焼酎の製造工程も見学できる H.太陽をいっぱい浴びた喜界島マンゴー I.白ゴマ生産量が日本一の喜界島に咲く白ゴマの花 J.百之台公園からの眺望 K.島内の家々を取りまくサンゴの石垣も見事だ

喜界島

Kikaijima Island

Amami-Oshima Island MAP

奄美大島と周辺離島 ぐるっと周遊計画

美しい海岸線、緑豊かな太古の森林、マングローブ原生林。
奄美の自然は旅人の五感に響きます。

巡ってみよう♪ 周辺スポット

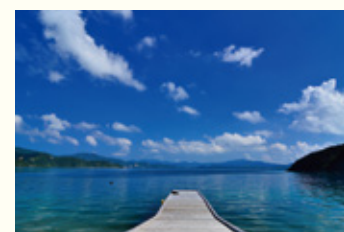
土盛海岸／奄美パーク／田中一村記念美術館／本場奄美大島紬泥染公園／金作原原生林／マングローブ原生林／ガジュマルの巨木／サンゴの石垣

数ある海岸の中でも人気なのは、波の穏やかな内海でダイビングを楽しめる倉崎海岸やウミガメの産卵地としても有名な国直海岸。ハイシーズンの5～9月に訪れれば、エメラルドグリーン美しい海を満喫できます。また、奄美に魅せられた日本画家・田中一村の絵画が多数展示されている田中一村記念美術館もおすすめです。さらに奄美大島から近い加計呂麻島や喜界島まで足を延ばせば、きっと大満足の旅になるはず。

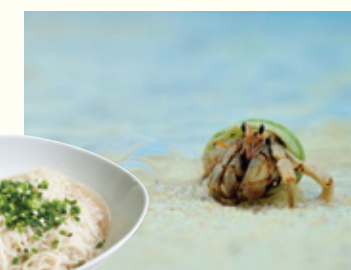
Island Column

栈橋で過ごすリラックスタイム

海上タクシーは、加計呂麻島の住民にとって身近な交通手段。そのため、各集落には小型船が横付けできる栈橋があります。栈橋の真下は透明な海。この絶好のロケーションで、栈橋に座って美しい海を眺めたり釣りをしたりと思いいいにのんびり過ごすのは、まさに至福の時間です。



奄美の郷土料理
『油そうめん』



奄美大島から加計呂麻島へは古仁屋港からフェリーで20～25分ほど、喜界島へは飛行機でわずか15分ほどと、あっという間に移動することができます。地形や文化の違いを楽しみつつ、鶏飯や油そうめんなどのグルメも余すことなく堪能しましょう。加計呂麻島の周りの無人島ではキャンプも楽しめます。

繋ぐ島

徳之島

Tokunoshima Island

徳之島は時に力強く、時に包み込むようなやさしさで
アマミノクロウサギをはじめとする希少生物の命を
守り続けてきました。徳之島は、そこに息づくすべての
生命を未来へ“繋ぐ”島なのです。

犬の門蓋から見た夕景



サンゴ礁に囲まれ、ダイビングスポットが無数にある



梅雨明け頃、産卵をしに大群で海に現れるオカヤドカリ



徳之島の最高峰・井之川岳には希少な動植物も生息



サンゴ礁に囲まれた白浜の駐プリンスビーチでの朝焼け



約500年の歴史を持つ闘牛は徳之島を代表するイベントで、運が良ければ浜などで練習風景を見られる



徳之島はウミガメの産卵地で、海中で泳ぐ姿を見ることもできる



樹齢300年のガジュマルと石垣

天城岳・井之川岳・犬田布岳を中心とした
徳之島の山岳地帯には、スダジイやオキナワ
ウラジロガシなどの常緑広葉樹が優占する
森林が広がっています。森林にはアマミノクロ
ウサギをはじめとする希少な動植物が多数
生息していますが、トクノシマトゲネズミや
オビトカゲモドキ、トクノシマエビネなど、
徳之島の固有種も少なくありません。
このような希少生物が生息する山地は島の

中央部にあり、その周縁部を隆起サンゴ礁か
らなる石灰岩の台地が取り巻いています。海岸
線に向かって緩やかに傾斜した台地にはサト
ウキビ畑やゴマ畑が広がり、さらに海岸部まで
出ると、隆起サンゴ礁が侵食されてできた奇岩
や南の島では珍しい花崗岩の海岸「ムシロ瀬」
も見ることができます。こうした徳之島の自然
が見せる多彩な表情は、人々の心を魅了して
やみません。

徳之島

自然体験と島の文化

海と山、それぞれの魅力を体験

周囲約90kmの大きな隆起サンゴの島である
徳之島は、ダイビングで人気のスポット。周辺
の海には隆起サンゴの島特有の珍しい地形
やアーチ、トンネル状の奇岩などを楽しめる

ポイントがたくさんあります。また、ウミガメやコ
ブシメとの遭遇率が非常に高いこともダイバー
たちを惹きつける所以です。

さらに、徳之島には天城岳や井之川岳、犬田
布岳など、世界的にも貴重な生態系を擁する
山もあり、バードウォッチングやトレッキングに
最適なほか、アマミノクロウサギ観察小屋で
は、夜行性の生態を昼間でも貴重な映像で見
ることができます。

変化に富んだ複雑な徳之島の地形は、私
たちに驚きや感動を与えてくれます。

島が熱狂に包まれる「闘牛」

徳之島の代名詞といえ約500年の歴史
がある「闘牛」。人と牛が闘うスペインの闘牛と
は異なり、徳之島の闘牛は牛と牛の闘い。通常
の牛よりずっと大きい700キロ〜1トンの巨体
をぶつけ合う姿は迫力満点です。年に十数

回の地方場所と1、5、10月に行われる「全島
大会」があり、「全島大会」の覇者が「全島一
横綱」となります。勝利の際に関係者がなだれ
込み「ワイド！ワイド！（わっしょい！わっしょ
い！）」の掛け声と指笛が響き渡る様子からは、
“島人（しまっゅ）”のエネルギーを感じるこ
とができます。時おり浜辺で牛の散歩風景を
目にするのも闘牛の島、徳之島
ならではの。

＼ ニコが見どころ！ /

徳之島を
周遊するなら…

1 犬の門蓋（いんのじょうふた）

東シナ海に面した海岸一帯には
「めがね岩」などの奇岩や断崖が
あります。長い年月をかけて侵食さ
れたユニークな地形を楽しんで。



2 犬田布岬（いぬたぶみさき）

島の南西部、東シナ海に向かい三
角状に突き出た岬。1945年4月に撃
沈された戦艦大和を旗艦とする特
攻艦隊戦没者の慰霊塔があります。



3 闘牛（なくさみ館）

試合で使用する闘牛場は島内に5
ヶ所あります。運が良ければ、試合
の開催時期でなくても、闘牛の散歩
を見られる可能性も。



4 金見崎ソテツトンネル

金見崎の高台に位置する徳之島の
名所。ソテツのトンネルを奥へ奥へ
と進んでいくと、展望台に出ること
ができます。



5 ムシロ瀬

北西端にある岩場。島内で花崗岩
があるのはこのみ。岩がムシロを
敷き詰めたように広がった形をして
いることから名付けられました。

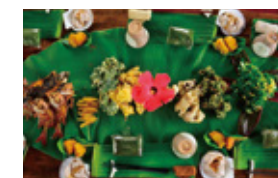


6 ウンブキ

かつてサンゴ礁が地上に隆起して
鍾乳洞（ウンブキ）ができ、再び海
に沈した海底洞窟です。約400m
先で海につながっています。



徳之島の食



その昔、徳之島ではバナナの葉を
お皿にして、豚足などの郷土料理
をふるまっていました。

沖永良部島

Okinoerabujima Island

沖永良部島・与論島

大自然が織りなす造形美を体感

沖永良部島は、40万年もの年月をかけて隆起したサンゴの島。テッポウユリやエラブユリなどの花々が美しく咲き乱れることから、“花の島”とも呼ばれています。また島の地下には200～300の鍾乳洞があり、ケイビング（洞窟探検）を楽しめる全国有数の人気スポットでもあります。「フーチャ」や「田皆岬」といった大自然が織りなす造形美を間近で見るこ

もでき、リーフが発達した海岸に、ウミガメたちが海藻を食べに集まる様子はまさに楽園です。

リーフ（サンゴ礁）に 囲まれたリゾートアイランド

奄美群島の南端に位置する与論島は、奄美群島最大の規模を誇るサンゴ礁に囲まれた美しい島。サンゴ礁には色とりどりの熱帯魚たちが集まり、マリンスポーツを楽しむ人々の目を楽しませてくれます。また、島内の浜

辺では産卵のために上陸するウミガメの姿を見ることがあります。干潮のときのみ沖合約1.5kmに姿を現す真っ白な砂浜『百合ヶ浜』にはグラスボートに乗って渡ることができ、360度エメラルドグリーンの海に囲まれた神秘的な美しさを体感できます。

【沖永良部島】A.『昇竜洞』は全長3500mもあり、ライトアップされた姿は圧巻の美しさ B.国頭小学校の『日本一のガジュマル』は枝張りの直径が22mもある C.高さ51mの断崖絶壁『田皆岬』は奄美十景の一つ D.『エラブユリ』は全国球根生産量の9割を占める

【与論島】E.干潮時にのみ現れる『タイムトンネル』 F.『与論民俗村』では芭蕉布織りを体験することができる G.ドラゴンフルーツのカキ氷 H.干潮時だけに姿を現す幻の砂浜『百合ヶ浜』



与論島

Yoronjima Island

Tokunoshima Island MAP

徳之島と周辺離島 ぐるっと周遊計画

「マリンスポーツだけじゃ物足りない」という人には、ケイビング（洞窟探検）や奇岩巡りがおすすめ。

巡ってみよう♪ 周辺スポット

ムシロ瀬／金見崎ソテツトンネル／犬の門蓋／犬田布岬／なくさみ館／日本一のガジュマル／田皆岬／昇竜洞／百合ヶ浜／与論民俗村

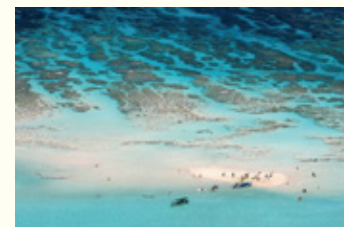
アマミノクロウサギ等の固有種・希少種の生息地となっている山と、穴場のダイビングスポットが点在する海の両方を楽しめる徳之島をメインに、沖永良部島と与論島まで足を延ばせば、それぞれの島が持つ非日常的な美しさを満喫できます。

なお、島と島の移動は海とサンゴ礁の美しさを間近で体感できる海路もおすすめ。徳之島～沖永良部島は海路で約110分、沖永良部島～与論島は約100分で渡ることができます。

Island Column

神秘の浜・百合ヶ浜

与論島最大の観光名所といわれる百合ヶ浜。春から夏の大潮の干潮時のみ海の中から現れる幻の砂浜です。時期や潮流により日々姿を変えるため、そこで見える景色は一度きりの絶景です。百合ヶ浜で年齢の数だけ星砂を拾えば幸せになれるという言い伝えがあります。



リーフが発達しているところは、ユニークな奇岩や洞窟がたくさんあります。実物を見ればそのスケール感に圧倒されるはず。マリンスポーツとは異なる観点から海の魅力を発見できます。また徳之島の登山道では、希少な植物を踏み荒らさないように気をつけて。

育む島

沖縄島北部

Northern Part of Okinawa Island

国頭村、大宜味村、東村の三村にまたがる沖縄島北部（おきなわしまほくぶ）は、豊かな緑を抱く森やそこで生きる生命を“育む”のびやかで力強いエネルギーに満ちており、自然と人が共生する尊い姿を映し出しています。

朝日に包まれる、神秘的な与那覇岳

沖縄島北部の森を縦断できる大國林道(全長35.5キロ)

安田地区から望む安田ヶ島

大石林山の日本最大級の巨大ガジュマル

沖縄島北部の固有種、ヤンバルクイナ

慶佐次川のマングローブ

変わった形状が特徴のイタジイの樹冠

心身がリフレッシュする大宜味村のター滝

沖縄島北部の国頭村、大宜味村、東村を含む「やんばる」地域は、世界的にも貴重な自然の宝庫。上から見るとまるでブロッコリーのようなモコモコとした形状をしている照葉樹林「イタジイ（スダジイ）」が沖縄島北部の森のおよそ70%を占めており、森には巨大な木性シダ、ヒカゲヘゴなど多種多様な植物が茂っています。まるで恐竜時代へタイムスリップしたようなダイナミックな自然の息

吹を体感できるのが大きな魅力。モンスーンや暖流の黒潮の影響を受けることで亜熱帯性の多雨林を形成し、温暖かつ湿潤な気候を維持しています。最高峰の与那覇岳においては年間平均3,000mmもの降雨量があり、その恵みが大地へと還元されています。また、その豊かな緑に抱かれるように、ヤンバルクイナやノグチゲラ、ヤンバルテナガコガネといった希少生物が多数生息。生物多

様性に富んだ自然は、まさに人類共通の“宝物”と呼ぶにふさわしい姿を成しています。沖縄島北部は、北緯27度付近に位置していますが、世界の同緯度地域をみるとそのほとんどが草原や乾燥帯となっていることから、沖縄島北部の森はその存在自体が価値のある「奇跡の森」とも呼ばれています。長い年月を経て育まれた自然の恵みに触れ、その美しい景観を胸に焼き付けてください。

沖縄島北部

自然体験と島の文化

感動を生む自然・文化体験

最北端の「国頭村」では、森林セラピーや夜行性の昆虫を観察するナイトハイクを開催。“海人（うみんちゅ）”の気分が味わえる定置網漁体験ツアーも実施しています。「東村」の慶佐次（げさし）川では、国の天然記

念物に指定されているマングローブ（ヒルギ林）を眺めながらカヤックが体験できます。また「大宜味村」では、国の重要無形文化財の伝統工芸「芭蕉布」を体験できる工房があります。

自然と共生する素朴な風景

精緻な自然とそこに生きる人々が共生し、歴史を育んできた沖縄島北部は、古く

から農業が盛んな地域。シークワサーやパイナップルなどの果物が主な特産品として知られています。それらをアレンジしたジャムなどの加工品やスイーツはお土産としても人気を集めています。

各種自然・文化体験から島グルメ、集落の散策など様々な楽しみ方ができる沖縄島北部は、心と体のリラックス&リフレッシュに最適の旅先です。

\ ココが見どころ！ /

沖縄島北部を
周遊するなら…

1 茅打バンタ

東シナ海へ向かって切り立った、高さ80mもある断崖は圧巻！美しい海岸線を一望できる展望台は絶好の撮影スポット。



2 大石林山 & ガジュマル

約2億年前の石灰岩による世界最北端の熱帯カルスト地形。散策コースにある気根を垂らした巨大な御願ガジュマルも一見の価値あり。



3 辺戸岬

断崖からの景観が見事な最北端に位置する辺戸岬。晴れた日には、水平線に鹿児島県と論島を望むことも可能です。



4 奥の集落

素朴な風景が残る最北部の集落。地域の人々の憩いの場でもある「奥共同売店」では、村の生活の姿が垣間見えます。



5 芭蕉布体験

国の重要無形文化財、喜如嘉の芭蕉布の行程の一部が体験可能。地域の自然や人と共に生きる美しい伝統工芸は感動の一言。



6 シークワサー

大宜味村の特産であるシークワサーは甘酸っぱい味わいが特徴の柑橘類。ジュースなどで気軽に楽しむことができます。



7 高江の森

亜熱帯の植物で構成され、希少な動物や昆虫のすみかとなっている奥深い森。運が良ければノグチゲラに出会うことも。



名護市

Nago
City

名護市・本部町・今帰仁村

ドライブしながら風景を楽しめる、
沖縄島北部から車で行ける2つの島

橋で結ばれる「屋我地島」と「古宇利島」は、沖縄島北部を訪れた帰りにぜひ立ち寄りたい魅力あふれる小さな島です。名護市に位置する屋我地島のビーチにはキャンプエリアがあり、釣りや貸しボートなどアクティブに楽しめるのが魅力的。屋我地島と古宇利島は古宇利大橋で繋がっており、橋の上から見る景

色は思わずカメラにおさめたくなる美しさです。古宇利島のテーマ浜には「ハートロック」と呼ばれる岩があり、サンセットにはロマンティックな光景を描き出します。

北部エリアの本部町・今帰仁村には家族で楽しめる観光スポットが満載

人気観光スポットの「沖縄美ら海水族館」がある本部町。巨大なジンベエザメや神秘的な海の生き物たちを眺めた後は、沖縄そばを味わい、備瀬のフクギ並木を散策するのがお

すすめです。並木を通る水牛車に揺られているとまるで時が遡ったような不思議な感覚に包まれます。今帰仁村では、世界遺産の一つである「今帰仁城跡」の散策を楽しむことができます。毎年1月末から2月初旬には城跡周辺は桜が満開となり、ライトアップされて幻想的な雰囲気に包まれます。

【名護市】A.屋我地ビーチで過ごす心地よい時間 B.昔ながらの風景が今も残る C.5～6月頃に開花する月桃 【今帰仁村】D.島から島へ移動できる古宇利大橋 E.世界遺産「今帰仁城跡」 【本部町】F.「沖縄美ら海水族館」で海の生き物を観察しよう G.島の原風景、備瀬のフクギ並木 H.沖縄そばは、県民のソウルフードの一つ

今帰仁村

Nakijin
Village

本部町

Motobu
Town

Northern Part of Okinawa Island MAP

沖縄島北部と周辺エリア
ぐるっと一周計画

素顔の沖縄を感じることができる、
沖縄島北部と周辺エリアは、
大自然を活用した景勝地や文化が
大きな魅力です。

巡ってみよう♪ 周辺スポット

ヤンバルクイナ生態展示学習施設/
塩屋大橋/東村立山と水の生活博物館/
今帰仁城跡/備瀬のフクギ並木/
海洋博公園・沖縄美ら海水族館

沖縄島北部とその周辺の市町村は、ドライブしながら散策するのに最適なエリアです。豊かな植物群落や昔ながらの集落の風情を体感できる「備瀬のフクギ並木」などの美しい景観は、訪れる人をやさしく出迎えてくれます。また、ヤンバルクイナの生態を確認できる「ヤンバルクイナ生態展示学習施設」など、実際に目で見て学べるスポットも多く、家族や仲間同士で心に残るひとときを楽しむことができます。

Island Column

国頭村・奥の「お茶摘み体験」

お茶栽培に適した土壌「国頭マージ」が分布する国頭村の奥は、県内有数のお茶の生産地。3月に収穫を迎えるため、日本一早い新茶として知られています。国頭村には、「お茶摘み体験」を実施している体験施設もあり、茶摘みはもちろん、茶葉を煎って揉む作業など、貴重な「お茶作り」の行程を体験することができます。



那覇空港から車でおよそ2時間30分～3時間ほどかかる沖縄島北部は、沖縄本島の最北部エリア。撮影スポットとして魅力的な景勝地はもちろん、森や海といった豊かな環境を活かした多様な自然体験を楽しむことができます。

宿る島

西表島

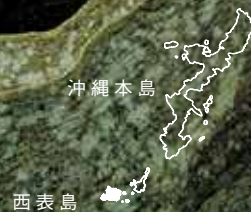
Iriomote Island

日本の最南端・八重山諸島に属する西表島。

亜熱帯のジャングルやマングローブの原生林などには

世界的にも希少な動植物が数多く生息しており、

多様な生命が“宿る”島として訪れる人を魅了します。



仲間川上流の森に屏風のような板根を張る、推定樹齢400年の巨大なサキシマスオウノキ



[B] Photo: Hitoshi Yoneyama [C] Photo: 環境省西表野生生物保護センター



島に生息するカンムリワシやヤエヤマセマルハコガメ。

A.「丸い滝壺」という意味をもつマリユドゥの滝は、周辺までトレッキングで行けるが、装備には十分な注意が必要 **B.**主に2月から4月頃にかけて見られるヤエヤマヒメボタルの大乱舞は言葉にできない美しさ **C.**国の天然記念物にも指定されているイリオモテヤマネコは西表島だけに生息する **D.**仲間川の流域には、貴重なマングローブ林が広がっている

八重山諸島に属する西表島は、沖縄本島に次ぐ面積を誇り、島内のおよそ90%が亜熱帯の自然林で覆われています。地殻変動や海水面の上下動の影響で幾度か島と大陸が繋がった歴史があり、大陸及び南方の動植物が多く確認されています。長い時間をかけて島の固有種となったイリオモテヤマネコは、国指定特別天然記念物及び絶滅危惧種に指定されており、保護活動が行われています。

また、島の北部を流れる沖縄県最長の浦内川は、魚類の種多様性が日本一高い河川。源流から河口までの約19kmの水域になんと

400種類以上の生息が確認されています。また、ヤエヤマヒルギからニッパヤシまで、日本国内で生育しているマングローブ植物7種すべてが分布しているのは西表島だけです。

島内では自然環境に配慮したエコツアーも盛んで、カヤックやトレッキング、キャニオニングなど、ダイレクトに島の自然を体感することが可能です。次代へと継ぎたい、宝石箱のように豊かな森、川、海、星空が織りなす圧倒的な自然の物語。他にはない生態系と神秘的な景色が宿った西表島には、忘れられない感動のシーンが数多く存在します。



熱帯魚やサンゴに出会える美しい海中でのシュノーケリングは人気のアクティビティ



島の北西部にあるヒナイ川河口付近など、西表島には美しい星空を観察できるスポットがいっぱい



大見謝川で体験できるキャニオニングは、森の懷に抱かれて最高の思い出をつくることができる



透明度が高く、太陽を受けて輝く海では、SUPなど話題のマリンレジャーも楽しめる



サカリバナ



ミルク神



由布島の水牛車

西表島

自然体験と島の文化

八重山諸島最大の面積を誇る西表島では、ダイナミックな自然体験を満喫し、島独自の食や文化に触れることができます。

神秘の森で感動の瞬間を

奥深い西表島の森は、日常から遠く離れた美しき秘境。森の中に隠された宝物のような大小様々な滝を目指すジャングルトレッキングやマングローブ林でのカヤック体験は、まさに大自然との一期一会。その日、その瞬間にしか目にすることができない、オンリーワンの光景に心が揺さぶられます。

す。各種ナイトツアーも充実しており、星空観察や幻想的に発光するヤエヤマヒメボタル(2月～4月頃)の鑑賞も実施しています。

アクティブに楽しむ海遊び

森や川だけではなく、南の島ならではの海遊びも西表島の魅力の一つ。島を抱くまばゆい海では、鮮やかな熱帯魚や眼下のサ

ングを感じながら、カヤックやシュノーケリングを楽しむことができます。また、最近話題のSUP(スタンドアップパドルボード)も人気の体験メニュー。友達同士やカップルはもちろん、ファミリーが皆で楽しめるアクティビティが数多く揃っているのが西表島の魅力です。森や海へ足を伸ばし、まるで別世界のような風景に溶け込むことで、島の自然をより身近に感じることができます。

自然と共生する島の食と文化

亜熱帯の森や海に囲まれ、素朴な集落の風景が印象的な西表島では、自然との共生が日常になっています。例えば、ジャングルの木の実などをエサにした「カマイ(イノシシ)」の汁物やマングローブ林をすみかにしている「ガザミ(ワタリガニ)」を用いた沖縄そばなど、島の恵みによって育まれた独自

の食文化が見られ、八重山青木やハイビスカス、月桃といった、島に生育する植物の天然染料を用いた草木染めが盛ん。また、豊年祭(ブイ)や節祭(シチ)といった島の祭事は現在も旧暦で行われており、昔ながらの風習・文化を大切に守り暮らしています。この地には、日常とは“別世界”の感動が息づき、訪れる人の心を満たすエネルギーが宿っています。

\ ニコが見どころ! /

西表島を
周遊するなら…

1 新盛家住宅

沖縄県で最古の家と言われている古民家。茅葺きの屋根や平らなサンゴの石垣など風情あふれる佇まいが特徴です。



2 カンピレーの滝

沖縄県最長の浦内川上流にある美しいカンピレーの滝。トレッキングを楽しむ際は動きやすい服装で出かけよう。



3 星砂の浜

西表島北部にある透明度の高いビーチ。有孔虫の骨格である、星のかたちをした「星砂」を探ることができます。



4 イノシシ汁

ジャングルを駆け回っているカマイ(イノシシ)の肉は島の貴重なタンパク源。健康にも良いと言われ、汁物などにして食します。



5 バラス島

西表島と鳩間島の間地点に浮かぶサンゴでできた無人島。熱帯魚と触れ合うシュノーケリングが人気を集めています。



6 由布島

水牛車に揺られ、浅瀬を渡って由布島へ。島全体が亜熱帯の植物園になっており、ゆったりとした時間が流れています。



7 仲間川でカヤック

マングローブの湿地帯や国の天然記念物ヤエヤマシの群生などが広がる壮大な自然のパノラマ。カヤックで周遊がおすすめです。



竹富島

Taketomijima Island

竹富島・小浜島・波照間島

小さな楽園で感じる大きなよこび
鮮やかな島の色に心を染めて

八重山諸島の拠点である石垣島から高速艇で約10分程の竹富島は、昔ながらの美しい集落とスローな時の流れが魅力。風情あふれる水牛車や星砂で有名なカイジ浜、咲き誇るブーゲンビリアなど、素朴で色鮮やかな風景が広がっています。

同じく石垣島から高速艇で約25分の距

離にある小浜島は、対岸に西表島を望み、サトウキビ畑や牧場が広がるのどかな島。サイクリングやダイビングなど楽園の心地よさを思う存分満喫できます。

日本最南端のコーラルアイランドで
夢のように美しいビーチと出会う

「果てのうるま(サンゴ)の島」が、島名の語源とも言われている波照間島は、日本最南端の有人島。石垣島から高速艇で約1時間かけても行く価値のある絶景が広が

小浜島

Kohamajima Island

っています。その代表格が、圧倒的な透明度を誇るニシ浜。繊細なブルーのグラデーションが波打ち際から水平線まで続く光景はまさに息をのむ美しさ。また晴天であれば、貴重な南十字星を観測することも可能です。降り注ぐ星空とやさしい波の音。楽園からの贈り物に身も心も癒されます。

【竹富島】A.集落を巡る水牛車 【小浜島】B.両脇をさとうきび畑に囲まれた通称シュガーロード C.南国の空に溶け込む花々 D.ビーチでの海遊びは最高の思い出に 【波照間島】E.手作業でさとうきびを切っていく F.サンゴの美しい景観 G.島内にはヤギも多い H.ブルーと純白が溶け合うニシ浜

波照間島

Haterumajima Island

Iriomote Island MAP

西表島と周辺離島
ぐるっと一周計画

西表島を含む八重山諸島は、個性豊かな島々が点在するエリア。何度も訪れたくなる魅力にあふれています。

巡ってみよう♪ 周辺スポット

川平湾/御願崎灯台/コンドイビーチ/
シュガーロード/由布島水牛車/サキ
シマスオウノキ/カンピレーの滝/浦
内川/ヨナグニウマ放牧風景/ニシ浜

石垣島は八重山諸島と島外エリアを結ぶメインゲート。川平湾や平久保崎といった景勝地も多く、例年多くの観光客がこの地を訪れます。石垣島から西表島までは高速艇で約40分。日帰りのエコツアーなども設定されているので気軽に体験できます。

また、日本最西端に位置する与那国島は、山や田畑、在来種のヨナグニウマが草を食む牧草地などが広がっています。小さい島でありながら、まるで異国のようなスケールの大きな景観が特徴です。

Island Column

竹富島ならではの個性派シーサー

沖縄では魔除け及び守り神として、門柱や屋根の上にシーサー(獅子)の置物を配している民家が多く見られます。なかでも竹富島は赤瓦の民家が多いため、もともとは瓦職人が余った瓦と漆喰で作ったとされる個性豊かな表情やフォルムのシーサーがいっぱい。集落を散策する際はぜひ注目してみてください。



八重山諸島の一部である西表島の周囲には個性豊かな小さな島々が点在しています。例えば日本の最南端にある波照間島と最西端の与那国島では、島の佇まいや景観は大きく異なりますが、どの島にも自然と人が共に過ごして来た歴史があります。

